ISSN 1348-5458

山梨大学附属図書館報

やまなし

2004.7.15
vol.2
no. 1

UNIVERSITY OF YAMANASHI

CONTENTS

2 附属図書館の将来ビジョン
4 利用者の声
5 学生にすすめる本
6 図書館トピックス
7 図書館統計
図書館資料利用の手引き その3（INSPEC）

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

www.lib.yamanashi.ac.jp

附属図書館の将来ビジョンを考える

附属図書館長　大友（オオトモ）　敏明（トシアキ）

現在，国立大学法人の附属図書館は多かれ少なかれ，所蔵スペースの狭隘化，建物自体の老朽化の問題を抱えているばかりでなく，電子化・情報化・国際化の波にさらされ，根本的な改革を余儀なくされています。そうしたなかで21世紀型の図書館を実現するべく新たな理念のもとに附属図書館をリニューアルオープンさせた大学もあります。管見した限りでは，横浜国立大学が法人化前に中央図書館を増築・改修させています。附属図書館の増築・改修事業は，並大抵の事業ではないことは十分承知していますが，本学の附属図書館の今後20年，30年後の将来像を思い描くとき，大学が法人化したいま，この契機をとらえて学生支援，研究支援の立場に立った本学独自の附属図書館の将来ビジョンを策定し，増築・改修の事業に着手することが本学の附属図書館に課せられている大きな課題ではないかと考えます。

本学の附属図書館の増築・改修計画を早急に策定しなければならない理由は，大きくいって２つあります。ひとつは大学の法人化にともなって法人の資産である図書館資料を集中管理する必要があることです。しかし，この図書館資料の集中管理は附属図書館が抱える構造的な問題に手をつけることを意味します。というのは，ひとつは図書館資料の受け手側に問題があります。資料の集中管理をしたくてもそれだけの所蔵スペースがもはや附属図書館にはないことです。現在，甲府キャンパスにある図書館資料は約46万冊ですが，そのうち本館で所蔵している資料は15万冊で，残りの31万冊は研究室や書庫に保管されています。この31万冊を図書館に搬入することは残念ながら現状では物理的に不可能です。もうひとつは資料の出し手側の問題です。現在研究室に特別貸し出しされている図書館資料を図書館に搬入することに対して教員の合意が容易に得られる状況にはないということです。図書館に資料が搬入されたとしても資料をいつでも自由に教員が閲覧できる状況が保証されない限りでは，教員の合意を得るにはかなりの困難が予想されます。

附属図書館の増築・改修の策定計画を急が

なければならないもうひとつの理由は，大学が法人になったいま大学における附属図書館の位置を根本的に検討する必要があるということです。社会において電子化，情報化が進行している現在，大学においても図書館の位置づけが急速に変化してきています。箱型の図書館はもはや不要であるという見解がそれです。これは図書館資料自体が漸次電子化されていくのだから，紙の資料の保存を考えるよりも電子ジャーナルやデータベースに予算の重点的配分を行うべきだという見解につながります。こうした時代状況のなかで，本学の附属図書館がどういう方向を目指すのかがこれまではっきりと位置づけられてこなかったように思います。附属図書館は研究支援を捨て，学生支援の立場に徹するのか，それとも研究支援,学生支援の両方を追求するのか,いずれにせよはっきりとした方向を打ち出さなければ，６年後に中期目標・計画の到達度が評価されたときに中途半端な評価しかえられないのは目に見えています。附属図書館に資料の所蔵スペースが不足するという厳然たる事実が指摘されているなかで，この問題の解決を先送りするわけにはいかないのです。

そこで平成16年度から２つの計画をスタートさせることにしました。ひとつは「附属図書館の将来設計に関する調査研究プロジェクト」の発足です。この第１回の会議が６月16日に開かれました。プロジェクト委員には，植松貞夫氏（筑波大学附属図書館長）や梅本洋一氏（横浜国立大学教授）の学外委員をはじめ，黒澤幸昭理事（教学担当），田丸憲二理事（総務・財務担当）および各学部から３名の学内委員に就任していただきました。さらに各学部選出の３名の学生協力委員からも意見を聴き，附属図書館の将来ビジョンについての基本的なコンセプトを提言することになっています。そして平成17年度には，このプロジェクトをより具体化するために図書館運営委員会の下に「附属図書館増築・改修基本計画策定ワーキンググループ」を発足させ，約１年の基本計画立案の過程を経て「附属図書館増築・改修基本計画」を策定する予定です。

もうひとつの計画は附属図書館に「研究開発推進室」を設置したことです。これまでは図書館職員が利用者サービスの向上に向けて不断の努力をしてまいりましたが，法人化後の図書館業務を高度化するにはそれだけでは十分ではありません。附属図書館主催の展示会・講演会，電子図書館開発プログラム，資料集中化検討計画，図書館職員の研修プログラム，地域貢献プログラムの開発，地域連携（県立図書館等），国際交流などさまざまな課題を調査研究するためには新たに教員組織を立ち上げることが必要だと考えました。

附属図書館の増築・改修の実現にしても財源的な裏づけがない限り，困難は当然予想されますが，計画のないところに実現はありえません。今回，学外委員と学内委員が真剣に討論することで附属図書館の将来ビジョンを策定し，近い将来附属図書館がリニューアルされることに少しでも寄与できれば幸いだと考えています。また研究開発推進室も図書館職員と協力し合いながらいままで以上の利用者サービスを提供できるように努力していきたいと思っております。

図書館とともに成長せよ

大学院教育学研究科　修士課程１年次生　宮下（ミヤシタ）　幸子（ユキコ）
（本館土曜日カウンター担当）

１．図書は利用するためのものである
２．いずれの読者にもすべて，その人の図書を
３．いずれの図書にもすべて，その読者を
４．図書館利用者の時間を節約せよ
５．図書館は成長する有機体である
（『図書館学の五法則』（ランガナタン著による））

図書館は日々変化している。書架や雑誌架が整理され，システムが充実し。

「それが何？」という感じだが，利用者が目的とする資料を苦なく手にすることができる図書館作りは意外と基本的で長期的な問題なのだ。図書には形も重さもある。１冊増えればその分場所もいる。無秩序に本が移動すれば，その本は永久に発見できないかもしれない。図書を死蔵させないための工夫が図書館には満ちている。また，図書館を見ると大学の研究の動向がよくわかる。蔵書は，研究者のニーズに沿って，何十年と積み重ねられて構成されるからだ。

身近な図書館を思い浮かべながら，図書館学の五法則を読み返すと，うまく考えたものだな，と感じる。図書館は知の総体である。人間の脳や心が形を持ったものである。その場所を日々維持し，利用者と知識との橋渡しをするのが図書館員である。

さて，利用者の私たちであるが，果たして図書館を上手に利用しているだろうか？ネットでググれば情報は右から左に手に入る時代ではある。図書館を上手く利用すればより密度の濃い情報検索や資料の入手ができる喜びを知っていますか？知らない，という人はまず図書館へ出向いて何かを調べるところから始めてみて欲しい。わからなければ，図書館員に質問をぶつけてみよう。

図書館は，育てていくものである。心身を育てるように，日々関わってみて欲しい。学生時代を振り返る時，図書館といっしょに成長した記憶を持つものは，また，幸せなのである。

私と図書館

附属病院眼科　医員（研修医）　石原（イシハラ）　怜美（サトミ）

私が図書館を主に利用したのは，医師国家試験前の受験生時代でした。実習も終わり，あとは受験勉強という時期に入ると，連日図書館に通い受験勉強に励みました。図書館での受験勉強は多くの学生が利用するため，その中で支えあいながら，そして時には刺激しあいながら進めることができました。図書館を利用するにあたって，実にありがたいことは，通常時間外でも申請さえすれば特別利用ができる点です。市や町の図書館は通常，夕刻には閉館してしまうため，学生にとっては利用しづらい点もあります。しかし，山梨大学附属図書館医学分館ではこのようなシステムを設けてくださっているため，専門書のそろった環境で自分の都合のいい時間帯に利用することができました。今後もこの特別利用が可能であり続けるために利用者が節度を守って利用していけたらよいと思います。

山梨大学医学部附属病院で働き始めてからも，ある疾患についての文献や論文検索をする際，図書館は実に有用な場です。図書館のホームページからアクセスして文献検索できるため，仕事の合間にも調べることができるのは非常に効率がよく，助かっています。また，図書館にはない文献も図書館を通して取り寄せることができるため，勉強に役立ちます。今後の自分の生活にとって図書館が身近な場であることはいうまでもありません。これからも図書館が利用者にとって快適な場であり続けるよう利用者の一員として協力していきたいと思います。

『うるさい日本の私』

■中島義道著　新潮社 1999（新潮文庫）

教育人間科学部生涯学習講座　**グローマー・ジェラルド**

「私は病気である。‥‥その病名は“スピーカー音恐怖症”である。」というまえがきで始まるこの本は，我々の生活環境に蔓延するスピーカー騒音について問題を提起する。

「足元にご注意下さい」「危険物の持ち込みはご遠慮下さい」「盗難にご注意下さい」「明日は有価物回収日です」等々，駅やバス，エスカレーターではエンドレステープが，また海水浴場，スキー場や商店街では音楽が延々と流され，津々浦々に防災無線，学校等のスピーカーが設置される日本。「放送による一律な注意・指示・禁止というやり方はきわめて暴力的で，野蛮ではないか」という。「アアセヨ，コウセヨという“優しい”放送を支持し，個人の人格を破壊し，怠惰な無責任な人々からなる幼稚園国家をつくる手助けをしている。」，「聞きたくない者の人権をどう考えるのか！」，選挙カーに向かって抗議する著者への反応や，「音漬け社会」の加害者が生まれるメカニズムを分析する。

日本の美しく曖昧なところではなく，うるさいところに着目した著者はノーベル賞をとることはないだろう。しかし，他人から「ああせよ，こうせよ」と放送されなくても自ら行動できる人間となるべきであり，またスピーカーで注意するよりも対話を大切にする文化を育みたいものだと考えさせられる一冊。

同著者の『〈対話〉のない社会ー思いやりと優しさが圧殺するもの』PHP新書，1997年はこの一冊を読み終えた方にお勧めしたい。

所蔵案内：
『うるさい日本の私』
本館　2階一般書架，分類：519.6

『〈対話〉のない社会』
本館　2階一般書架，分類：304

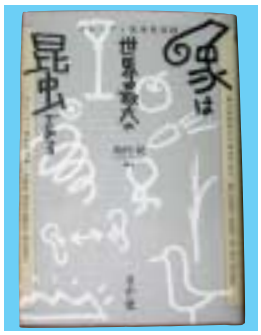
『象は世界最大の昆虫である ーガレッティ先生失言録』

■ガレッティ著　池内紀編訳　白水社 1992

医学部医学科　解剖学講座第1教室　**馬場（ババ）　健（タケシ）**

ガレッティ先生は，18世紀から19世紀のドイツに実在した歴史・地理学の教師である。本書は先生が講義中に漏らした700個以上の失言の数々を，教え子たちが集めて列記しただけのものである。だがこれがおもしろく，ひとり読み進めていると耐え切れずに爆笑してしまう。たとえば，歴史学では，「カール七世は，死後，22年ののちに射殺された。」とか「クリスティアン７世は生まれたとき，さほど老けてはいなかった。」とかが笑える。博物学では，「象は世界最大の昆虫である。」などの動物ネタがおもしろい。また，地理学では「湿地帯は熱されると蒸発する。」とか「アラビアでは空気がぶあつい。」などが妙に説得力を持つ。物理学では「水は沸騰すると気体になる。凍ると立体になる。」につい納得してしまう。極めつけは，「教師はつねに正しい。たとえまちがっているときも。」である。このような理不尽な教師に痛めつけられた後の癒しに，凝り固まった頭のネジを緩めたいときに，微妙な言葉の意味のずれを楽しめる人にお勧めの一冊である。しかし爆笑しているうちに，この本の大部分を占める西洋の歴史・地理に関して，ほとんど反応できていないことに気がつく。自分の教養の無さに愕然とするのだ。実はこの本のなかには，奥の深い世界が広がっていることがわかる。失言の元ネタを調べることが，良い西洋文化入門になるのかもしれない。

所蔵案内：
『象は世界最大の昆虫である』
分館　第2閲覧室，分類：947/ZOU



図書館トピックス

情報リテラシー教育支援への取り組み

附属図書館では，情報リテラシー教育の支援を目的として，各種ガイダンスを実施しています。

■図書館主催

学部新入生ガイダンス

（4/8～15　本館　各45分）

教育人間科学部，医学部，工学部の１年次生を対象に本館の施設，OPACの検索，図書の貸出，文献複写等の図書館サービスについて説明を行いました。また14日には，医学部の学生に対して，医学分館の職員から分館についての説明も加わりました。このガイダンスには新入生の68.2%にあたる546名が参加しました。

■授業連携

カリキュラムの中で講義の目的に応じた図書館の説明をしました。

●教育人間科学部・工学部　3年次生以上

総合科目「情報通信技術と情報社会」

（5/26　本館　90分）

この科目は，甲府キャンパスにおいて，情報通信技術の視点からインターネットを使った情報のよりよい活用を考察していくことを目的として開講されています。その一コマで図書館の電子図書館サービスについて説明しました。

電子図書館サービスの内容

1. **図書館の電子図書館サービス概要**
2. **蔵書検索**（附属図書館，山梨県内，国内，海外のOPAC蔵書検索）**の利用方法**
3. **データベースの利用方法**
4. **電子ジャーナルの利用方法**
5. **検索エンジンの特長**

●医学部看護学科

1年次生「学部入門ゼミ」

（4/26, 5/10　医学分館　各90分）

3年次生「実習オリエンテーション」

（6/30　医学分館　60分）

4年次生「看護研究・総合実習」

（4/27　医学分館　90分）

医学部看護学科からの要請により，学年の講義目的に応じて一コマずつガイダンスを実施しました。１年次生には，図書館蔵書の調べ方や図書館の概要説明の後，図書館ツアーを実施し，３年次生には，実習に役立つ資料の探し方や医学中央雑誌WEB版を用いた文献の探し方の説明，４年次生には，看護研究に備え，MEDLINE・CINAHL等を利用した文献の探し方のほか，電子ジャーナルや学外への文献複写依頼など文献収集のための方法を説明しました。

ガイダンス内容例

看護学科4年生「看護研究・総合実習」

1. **文献の検索から入手まで**
2. **利用できるデータベース**
3. **学術文献を探す(文献データベースの使い方)**
   医学中央雑誌WEB版,MEDLINE・CINAHL
4. **雑誌を探す（OPAC蔵書検索）**
5. **電子ジャーナルの使い方**
6. **学外へ複写を申し込む方法**
7. **看護研究関連図書・雑誌特集紹介**
8. **引用文献の見方**

■学部連携

医学工学総合研究部修士・博士課程新入生オリエンテーション

（4/13･14　医学分館　各30～60分）

医学部医学科2年次生・3年次編入生オリエンテーション　（4/8　医学分館　60分）

■新採用職員オリエンテーション

看護部新採用職員研修会

（4/2　医学分館　30分）

1　図書館利用統計（H15年度）

（1）開館日数・入館者数

区　分	開館日数	入館者数（人）		
		学内者	学外者	合計
本　館	262日	137,022	1,910	138,932
分　館	289日	125,668	831	126,499

（2）館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区　分	館外貸出冊数（冊）				参考調査件　数
	学　生	教職員	学外者	合　計	
本　館	16,454	1,141	357	17,952	2,292
分　館	12,287	2,215	476	14,978	3,726

学生一人当たり貸出冊数：本館4.5冊　分館９冊　平均5.7冊

（3）相互利用

区　分	貸借（単位：冊）		文献複写（単位：件）	
	貸　出	借　受	受　付	依　頼
本　館	179	309	3,636	3,337
分　館	82	52	4,392	5,735
合　計	261	361	8,028	9,072

（4）子ども図書室

開室日数	120日
入室者数	1,667人
貸出券発行人数	133人
蔵書冊数	2,121冊
貸出冊数	1,233冊

2　図書館蔵書統計

（1）図書・雑誌蔵書数（H16.3.31現在）

区　分	図　書（単位：冊）			雑　誌（単位：種）			電子ジャーナル（タイトル数）
	和図書	洋図書	合　計	和雑誌	洋雑誌	合　計	
本　館	333,692	128,362	462,054	6,664	2,168	8,832	--
分　館	48,687	45,698	94,385	1,804	1,390	3,194	--
合　計	382,379	174,060	556,439	8,468	3,558	12,026	7,109

（2）図書・雑誌受入数（H15年度）

区　分	図　書（単位：冊）			雑　誌（単位：種）		
	和図書	洋図書	合　計	和雑誌	洋雑誌	合　計
本　館	7,508	1,455	8,963	2,456	493	2,949
分　館	1,989	1,726	3,715	523	458	981
合　計	9,497	3,181	12,678	2,979	951	3,930

秋のイベント紹介 ●医学分館

講演会 地域でことばを失った人を支える
―失語症者の在宅訪問ケア

講師 言語聴覚士（ST） **平澤 哲哉 氏**

日時●平成16年10月20日（水）18:00～
場所●山梨大学医学部臨床大講堂（玉穂キャンパス）

医学分館では生と死のコーナー関連事業として，言語聴覚士（ST）である平澤哲哉氏の講演会を開催します。地域で言語療法の訪問ケア活動を積極的に行っている平澤さんに，患者さんとのコミュニケーションや地域で行う訪問ケアについて講演をしていただく予定です。

詳細については，ポスター，パンフレットおよび山梨大学附属図書館医学分館のホームページ（http://www.yamanashi-med.ac.jp/~tosho/home.html）でお知らせいたします。ご期待ください。

演者紹介

平澤 哲哉
（ひらさわ　てつや）

1961年山梨県牧丘町生まれ。1987年STとして初めて病院勤務。山形県，山梨県の病院勤務後，2003年病院を退職。現在地域における失語症者の訪問ケアを行っている。

著書「失語症者，言語聴覚士になる　ことばを失った人は何を求めているか」（雲母書房．2003）。

NHK教育テレビ『きらっといきる』（2004年5月1日放送）に出演。

平澤さんのHP
http://www.kcnet.ne.jp/~denden/

お知らせ

図書館利用マナー

図書館内での携帯電話使用，大きな声での雑談，ジュース・お弁当などの飲食が多々見受けられ，他の利用者から苦情が出ています。本館では４月19日から１か月間を「図書館利用マナー強化月間」として，図書館利用マナーの指導をしました。今後も折りを見て継続していきます。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は，山梨大学以外の大学生をはじめ一般社会人の方々も利用できます。詳細については，http://www.lib.yamanashi.ac.jpをご覧いただくか，本館Tel 055-220-8066（情報サービスグループ），医学分館Tel 055-273-9357（医学情報グループサービス担当）にお問い合わせください。

医学分館特別利用

医学分館では，本学医学部卒業生の卒後臨床研修医等で希望する方には，特別利用のサービスをしております。

詳細についてはTel 055-273-9357（医学情報グループサービス担当）にお問い合わせください。

図書館資料利用の手引きの活用法

各号で紹介する「図書館資料利用の手引き」は本体から取り外し，バインドして保存することにより，効果的な利用が可能となりますので，大いに活用してください。

山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第２巻第１号
2004年７月15日発行
編集：館報編集委員会
発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510
甲府市武田四丁目4-37
TEL 055-220-8063
印刷：株式会社 少國民社

●表紙撮影：図書課総務グループ係長　田中成人
場　　所：工学部附属ワイン科学研究センター育種試験地

工学系雑誌二次文献データベース INSPEC（OVID版）

INSPEC（OVID版）ってなに？

「INSPEC」は，Institute of Electrical Engineers（IEE）が提供する物理学，電子学，電気工学，コンピュータ，コンピュータ制御，情報工学分野の世界的な工学系文献情報データベースです。

文献情報は，雑誌論文約4,000誌以上，会議録2,000誌，報告書，学位論文，単行本から約800万件が収録され，収録期間は1969年～現在までです。

更新頻度：毎週

なお，本学では，OVID版のデータベースはINSPECの他にEBMR,MEDLINE,CINAHL,PsycINFOの利用が可能で，同じプラットホーム上で検索ができます。

INSPEC（OVID版）を使ってみよう

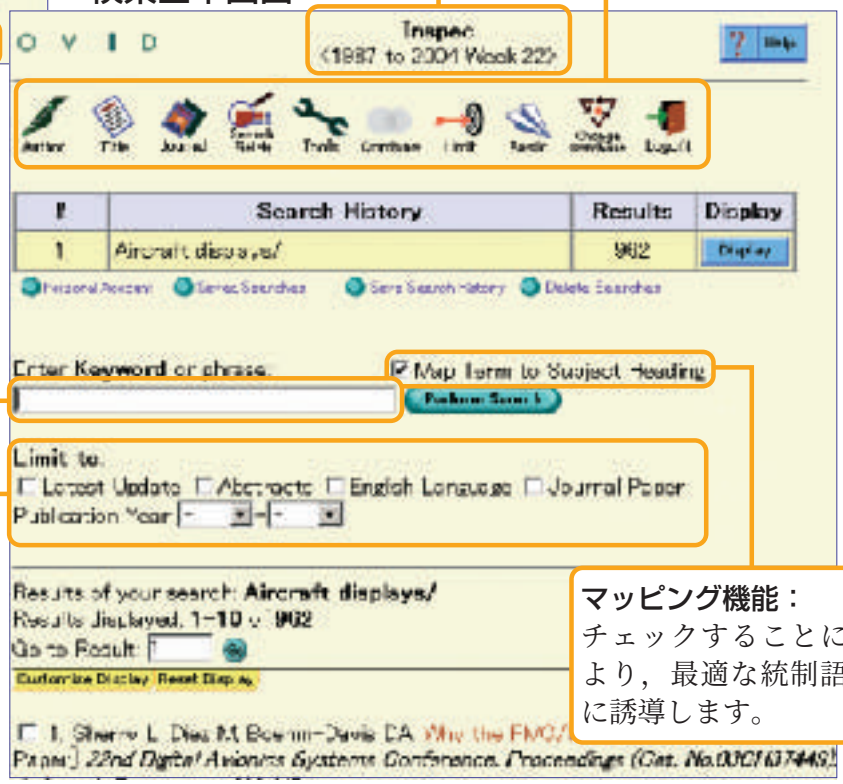
データベース選択画面

■データベースへログイン

[附属図書館ホームページ]

http://www.lib.yamanashi.ac.jp/にアクセスし，
データベースの中の
「Ovid(MEDLINE,EBMR,CINAHL,PsycINFO,INSPEC)」をクリックします。
データベース選択画面になりますので，「INSPEC」をクリックしてください。

検索基本画面



step 1

（例）「Aircraft」に関する文献を探す。

検索語を入力して“Perform Search”をクリック

■マッピング

マッピング機能は，検索語を最適なキーワードに自動的に誘導します。シソーラスの中から最適な用語をリスト表示しますので，検索したい概念にあった統制語を選択してください（複数選択可）。自分で入力したキーワードで検索したい場合は，一番下に表示されますのでそれをチェックしてください。

*統制語 とは?

統制語とは表現が多数あるものや表記のゆれを統制した語のことです。これを用いて検索することにより，その概念に関する文献が一括で検索することができます。

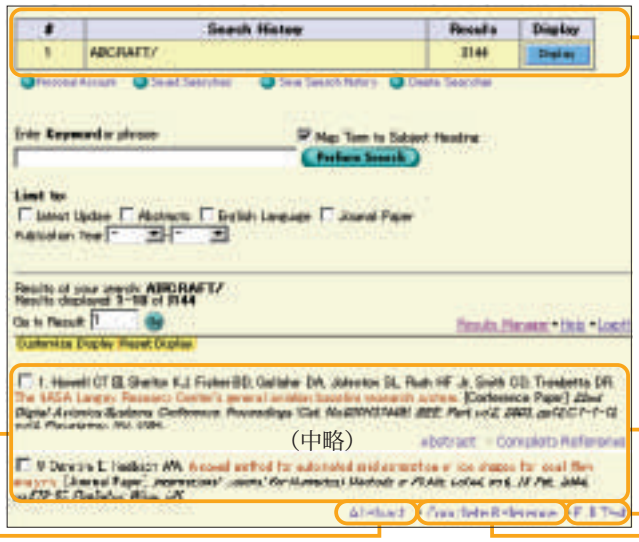
*Explode検索

下位概念も含めて検索したい場合は『Explode』をチェックしてください。（統制語をクリックすると階層構造が表示されます。）

キーワードチェック後は，Continue をクリックしてください。

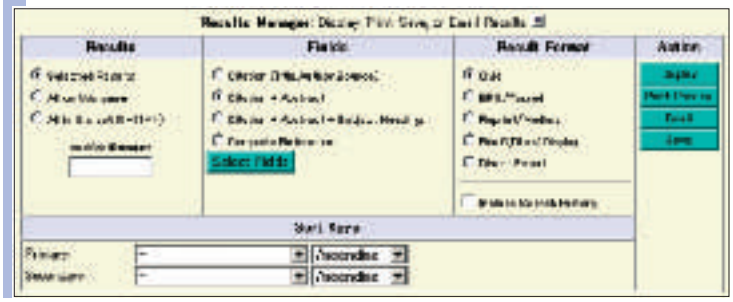
step2

検索結果の表示



step3

詳細データの表示・印刷・メール送信・保存



［Results］出力結果を選択する
［Fields］出力フィールドを選択する
［Result Format］出力形式を選択する
［Action］出力形態を選択する
　Display:画面表示
　Print Preview:印刷用表示
　Email:メール転送
　Save:ファイル保存

検索についての詳細はHELP画面を参照してください。

■終了するときは

お問い合わせは：本館（甲府）情報サービスグループ ―― 内線8066